

パーマーさん、ダビット・パーマーともいいませんが、その先生の召使いが耳が不自由で完全に聞こえなかったそうです。それで他の召使いに聞いたところ一旦那樣、アイツは小さいときに高い所から落つちて耳が聞こえなくなつた」ということであつたそうです。診察したところ背中にコブが二つあつたそうなんです。しかし、部品のほうは全く悪くないし、脳もしつかりしてゐる。もしかして、背中のコブを直せば耳も直るのではないかというので、押したり、引いたり、ねじったり、曲げたりしてゐるうちに耳が聞こえちやつた。いろいろな文献を調べましたが、このような治療法はない。「これ、オレが世界で初めてだぞ」ということで、名前つけなさいいけない。古い文献をみたところ、古代ギリシアの洞窟の中に簡単な、線で描いたような彫刻があつたのです。手当てをしてゐる彫刻なんです。病んでゐる人に手を当ててゐる。なるほど、医療の原点はこれだ、薬じゃない、手当てだと。痛いといへば手を当てる。ということ、ギリシアの言葉に敬意を表しまして、ギリシア語の「手」という意味の「カイロ」で「カイロプラクティック」ということで学会に発表して一世を風靡した。約百年前のことです。これが経緯でございます。

要するに薬は使いません。例えば熱を加えたり、水で冷やしたり、あるいは電氣を通したりとこういうことはしますけれども、薬は使わない。これが二十一世紀の医学ということ、一種のブームになつております。

ちなみにアメリカにはカイロプラクティックを教える大学が十七ございます。公立が十四、私立が三つ。それぞれ予科が二年ありまして、品行が良くない人が落とされ、それから本科に四年進み、インターン一年計七年で国家試験で、国家が認めますので、当然、医療保健も

適用になるといふ非常に権威の高いものがございます。このほか国際的には、イギリス、ドイツ、それからオーストラリアのシドニーにもカイロプラクティックの大学があります。お隣の韓国にも大学がありまして、(日本人も)一緒に勉強させてもらつてゐます。

日本はどうかといひますと、取り締まる法律がないものですから、だれでもどこでも、昨日まで八百屋のおばさんで、今日からカイロプラクティック師という人がたくさんいます。ですから(先生により)質の違いが非常にありまして、上は博士、大臣クラスをお世話する先生、政治家の偉い人にも私の所に来られる方もおりますが、反対に非常に乱暴で、さわつたところを壊してしまうような先生もいるそうです。

話は飛びますが、この仕事で感じたことを簡単に申し述べさせて頂きます。今、どこの治療所に行つても忙しいものですから、患者さんとのふれあいがなく、説明不足で(患者さんが)不安に思つてゐるといふことです。その上、説明がないのに「はい、薬です」といわれるものですから、「これは、なんの薬だろう」と非常に不安です。慢性の病は長くかかりますので、同じ薬を何度も飲んでゐるうちに、不信感、不安感ますます募ります。じゃあ、私の病を直せるのはどこなんだろうといふことで、みなさんいろいろな所へ行かれて、最後には宗教団体に行かれる方もいるのでございますが、やつとそのころになつて、私の所に相談に来るのだなといふのが実感でございます。

ところで、この中で、「オレは健康だよ」と思われる方おられましたら拳手願ひたいのですが……。誰もおられない……。あつ、一人、二人おられますね。WHOには「健康とは」という定義があります。「単に疾病や虚弱でないといふだけでなく、肉体的、精神的、並びに社会的に

完全に良好な状態である」といふことなんですね。ですから肉体的に健康でも例えば精神面で、会社で部長になり損ねたとかね、人間関係が悪いとか、子供の養育問題で悩んでゐるとか、夜寝れないとか、娘の縁談とか……。こういうのは絶対、健康的じゃないのです。ところが、今ここにお集まりのみな様、お顔を拝見致しますと大体私よりご年輩の方でございます。人生五十年をお過ごしになつた方が多いように思われます。もう喜怒哀楽の五、六回は体験なさつた方々だと思ひます。で、ひ弱な方は例へば、恋に破れて首吊つたり、病を氣にしてもう直らないのではといふことで自殺を考へたりですね、友達の間で借金苦にして首吊ろうかとかね、そんなことがあつても、失礼ですが、先輩のみな様方は恥を恥とも思はず、苦勞を重ねても厚かましく、図々しく生き延びて、もう精神的には絶対に病んでゐない。人生の達人でございます。

苦勞だつたらオレに聞けといふようなベテランばかりであらうかと思ひますが、ところが肉体的にはいかんせん、人生五十年も過ぎていればロボロボになつてきます。で、何が起りますかと申しますと、これは成人病ではなくてはつきりいへば老人病なんです。敬老精神でゴマすつてゐるんです。精神的に厚かましく、たくましく生きてきたけれども歳を経ても、これはもう老人病でございます。その中でも一番の死亡率の高いのがガン、その中でも肺ガン、胃ガンが多い。二番目に卒中、三番目に心臓発作、ポックリ病。成人病には七つ認定されておりますが、これが三大成人病と呼ばれるものでございます。さあ、精神的にはたくましく、今まで生き延びてきましたけれども、あと三十年、四十年生き延びたらなにが待つてゐるのかといひますと、第一のコース、あらゆるガ

ン。第二のコース、これの好きな人は脳卒中。どれを選びますかと、こういう現状なんです。じゃあこれを防ぐのはどうしたらよいかというのが、今日のメインテーマでございまして、まだ七分ございまして、ひとつお付き合い頂きたいと思ひます。

先ほどいいました三つ、交通事故とか、首吊らない限りは大体この三つ、ガンと脳卒中と心臓病ですが大体こちらで終末を迎えるわけですが、では、ガンで逝つたほうがいいという方ちよつと手を挙げてみて下さい。いますか。どうせこの三つで死ぬんだつたらガンがいいと思われ方誰もいませんか。じゃあ、卒中で逝きたいなと思われ方は。ポックリ、もうひと思いに。ああ、若干。それでは、心臓発作で逝きたいと。もうこの三つしかない、お迎えは。ああ、意外と多いですね。わかりました。

縁起でもないと思ひでしようが、いつか、それも一度しかないのですよ。死ぬのはたつた一回でございまして。よろしいですか、ガンほどいい別れはないのですよ。例えばですね、「ガンです。末期ですね。あと三カ月です」とある日、ある時告知されたとしても。そうすると、発想の転換で、幸運と不運をクルンとひっくり返しますと、「あつ、ガンか。あと三カ月か」と思えばまだ三カ月生きられる訳です。ところが、卒中と心臓病はポクツときたらボンと逝つちやうんですよ。もし本当に、一瞬の間にポロツといった場合は本人は楽かも知れませんが、しかしですね、死んだ後に恥さらすこともたくさんあると思ひますよ。いつ逝つてもいいようにと準備ができている人なんてまずないと思ひます。例えば、婦人問題を片づけておかないと必ずあとでこうなつてくる。あと、自分だけの趣味で隠しておいたHなビデオなんかが出てきたりしたら困るわけですよ。それから亡く

なつたあとで、贈与の問題で骨肉相食むような喧嘩になつても困る。ということ、心臓病と脳卒中なんかで逝つたら大変なんですよ、残つた者が。それに今は医学が進歩したから、コロツと逝かせてくれないんですよ。自分では始末できないくせに、三年も五年も苦労かけるんです。そして、死ぬといわれて最後には捨てられちやう。

ガンの場合がなぜいいかといひますと、三カ月といわれながらしつこくしがみついて半年生きたとしますよ。そうすれば一ついいことがある。もし保険に入つていたならば、生きているうちに贅沢三昧ができると、こういうこととございまして。そういう保険が今、できているんですよ。これが第一条。第二条、子供たちに思いつきり親孝行させてやる事ができる。お父さん、あと三カ月だからつて松茸のおいしいのを持つてきてくれる。お父さん、海外旅行行こうなんて一生懸命親孝行してもらえ。子供にとつて、これ大切なことですよ。第三番目に、死に恥さらさずに、女性問題から借金まで全部きれいにできると、こういうこととございまして。だからガンだからつて怖がつてはいけません。それで、今日のメインテーマに移ります。これらの老人病をカイロプラクティックでどう防ぐかということ。まず高血圧。これは、お医者さんの分野で、この間も学会で発表がありました。百人に九十人、九割近く、八十数%とはつきり決めていきましたが、原因はわかりません。そのわからない病名を、本態性高血圧と呼んでおります。それ以外の原因のわかる高血圧はわずかに十%たらず。あとはわかりません。わからないからとりあえず血圧を下げる薬を飲ませてくれますが、今はいいい薬ができておりますが、以前は副作用がありまして、そういう患者さんがたくさん私の所へ相談に来まして。

そんなことで、私、はつきり断言できません。とは、脳卒中、高血圧、あるいは心臓発作で弱つていの方は、心臓の上、鎖骨の下、鎖骨下動脈といひますが、このところがだいたい固い。胸の第二ボタン、このところがちよつとさわつてみて、初めは痛くないけれど十回ぐらい揉んでみると、キーッと焼け火箸を刺すような痛みが出ます。これがもう、共通です。第一番目、双頸動脈、頸骨動脈、首つかんだこの、喉仏の後ろのところがガチガチに固い。これは、交通事故やると頸椎損傷になりますね。それから、柔道とか剣道で突き食らつたとか、ラグビーとかそういう選手。何もない人でも、頭の重さというの人は人によつて変わりますが。ところが歳とつてくると頭の重さは同じでも、首が弱つてくるのです。だからガクツときた途端に首がずれる。これをむち打ち症という。これ、交通事故だけじゃない。くしゃみやみした途端にガクンといつたらウー。五十過ぎるとこうなつちやうんです。くしゃみやみ一発むち打ち症。

典型的に説明します。隣の人を見てみて下さい。まず、この首のうしろ、三段腹じやなく三段首になつていいる人、これは危ないです。いいですか。それから、肩の付け根、このところが何かこう豚肉の脂みたいに水ぶくれになつていいる人、これは心臓発作危ないです。それで、第二胸椎、首の骨から二つ下、これが心臓に行く神経が全部通つているところです。カイロプラクティックでこれを直しますと、不整脈・狭心症一発で直ります。ということ、ここを自分でさわつて柔らかくしておきますと、今日のテーマである、「ガンは怖くない」ということですね、これを防ぐことができます。さあ、それではそれを防ぐための体操です。まず、背伸びをすることです。姿勢を正しくして、疲れたといつて、ダラーンとしていいると、